

自動車整備作業中の事故防止について

厚生労働省ホームページ「職場のあんぜんサイト」に、全産業で発生した労働災害について労働災害統計・災害事例が掲載されており、日整連では、自動車整備業における最近10年間の統計を抽出し、まとめるとともに、独立行政法人自動車技術総合機構の検査コースにおける事故事例も掲載いたしますので、整備作業中の事故防止対策の参考資料としてご活用ください。

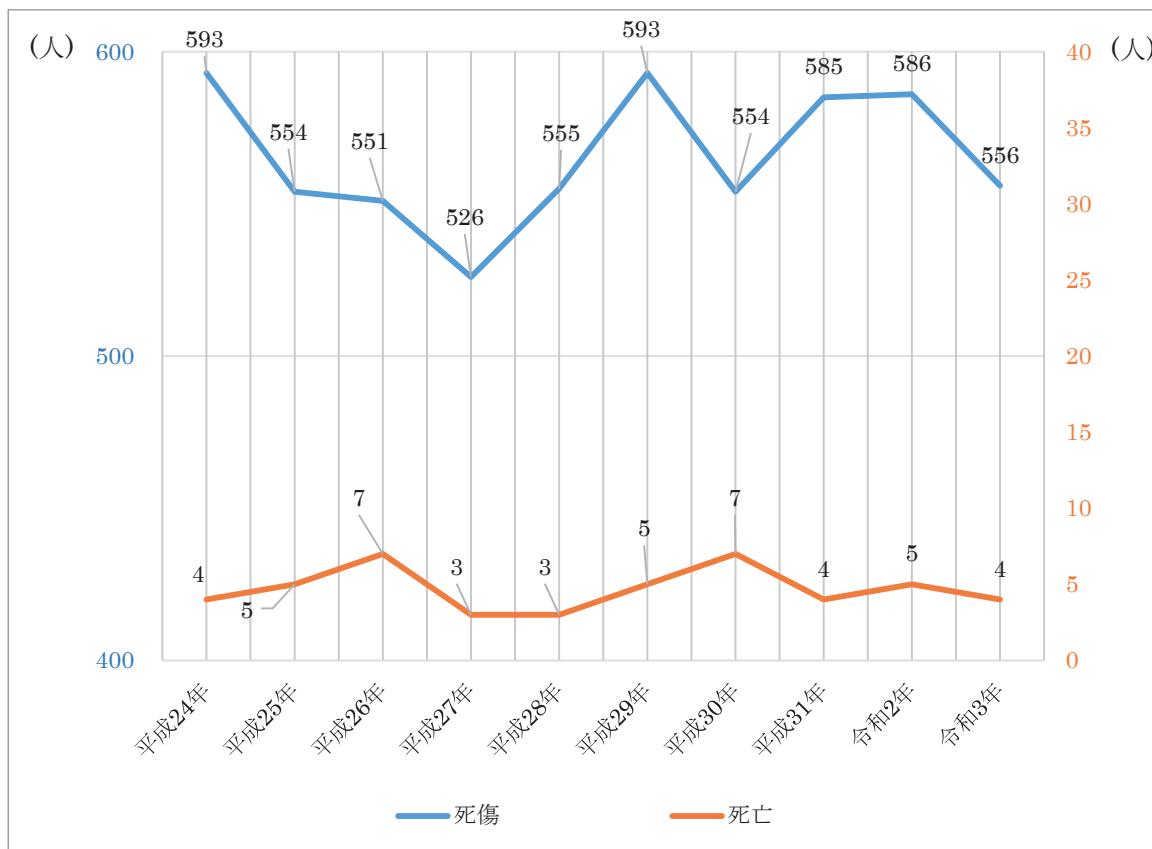
1. 自動車整備業の労働災害の状況

自動車整備業における最近10年間の労働災害事故の状況はグラフ1のとおりです。

死傷者数の推移については、平成30年以降、増加もしくは横ばいとなっておりましたが、令和3年の死傷者数は、前年と比べ30名減少し、556人となりました。

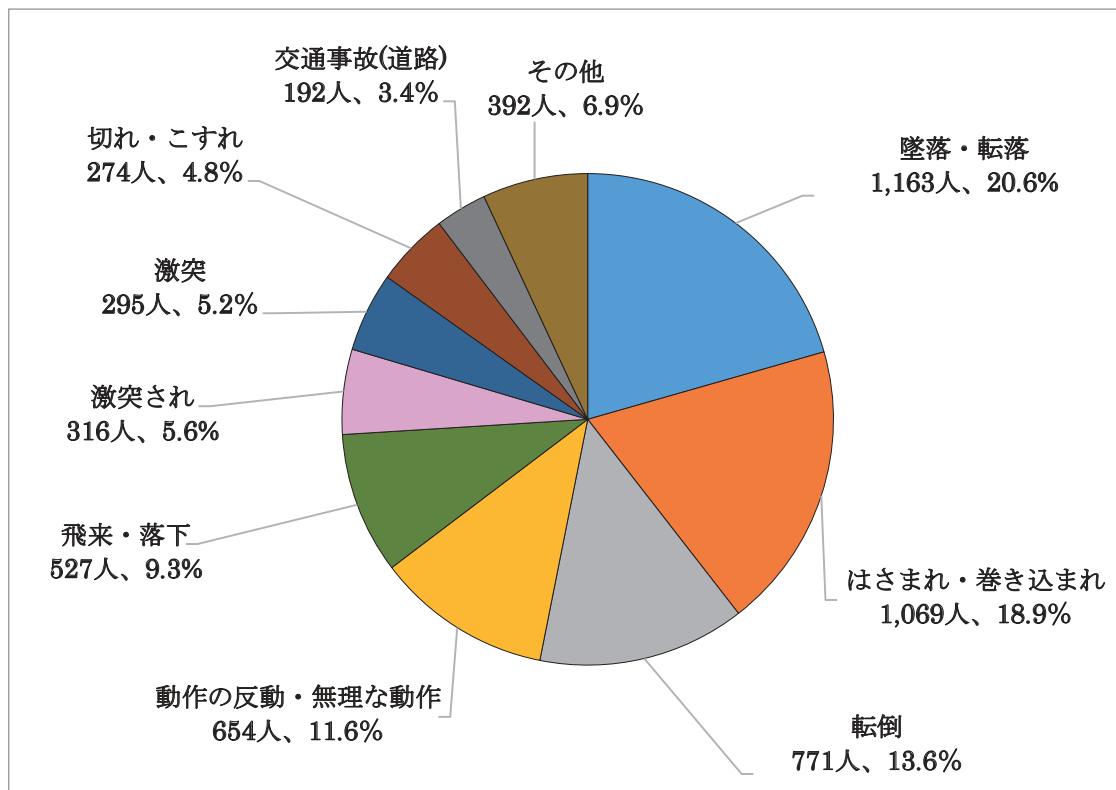
それに対し、死亡者数の推移について、令和3年の死亡者数は、4名となり、前年より1名減少しているものの、平成31年以降はほぼ横ばいとなっております。

グラフ1：自動車整備業の労働災害事故による死傷者数及び死亡者数の推移



グラフ 2 は、平成 24 年から令和 3 年における労働災害死傷事故を事故型別の割合で表したものです。

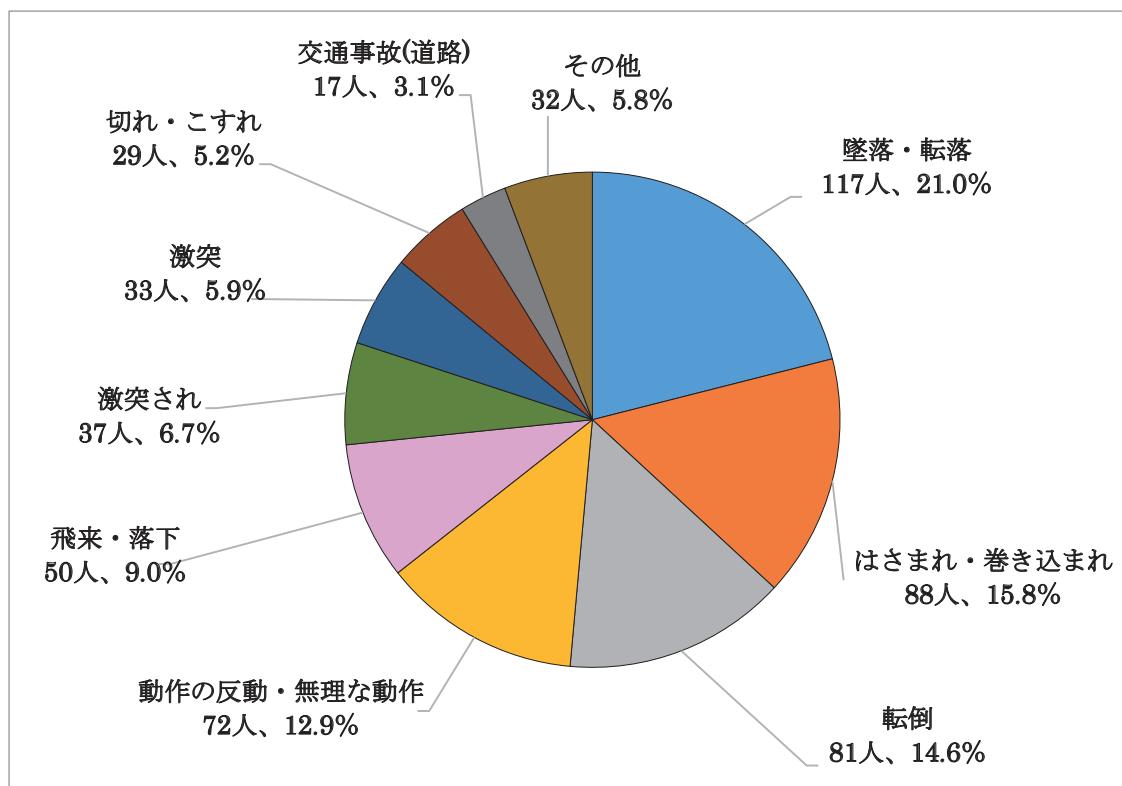
グラフ 2:事故型別 死傷事故発生割合(平成 24 年～令和 3 年)



グラフ 3 は令和 3 年の労働災害死傷事故をグラフ 2 と同様に事故型別の割合で示したものです。

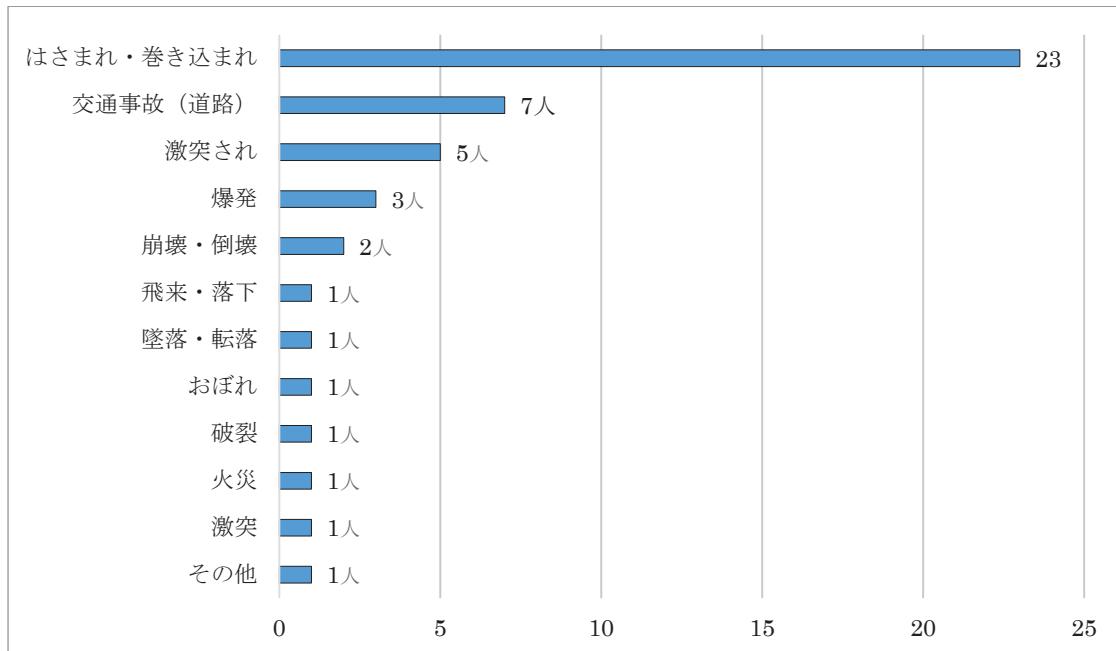
これらから、両グラフとも事故型別の割合はほぼ同じような状況であることから、毎年、類似した状況において労働災害死傷事故が発生していると推測されます。

グラフ 3:事故型別 死傷事故発生割合(令和 3 年)



グラフ 4 は、平成 24 年～令和 3 年の死亡者数を事故型別に発生割合の多い物の順に棒グラフにしたものです、「はされ・巻き込まれ」の割合が一番多く、毎年複数の方が亡くなられています。

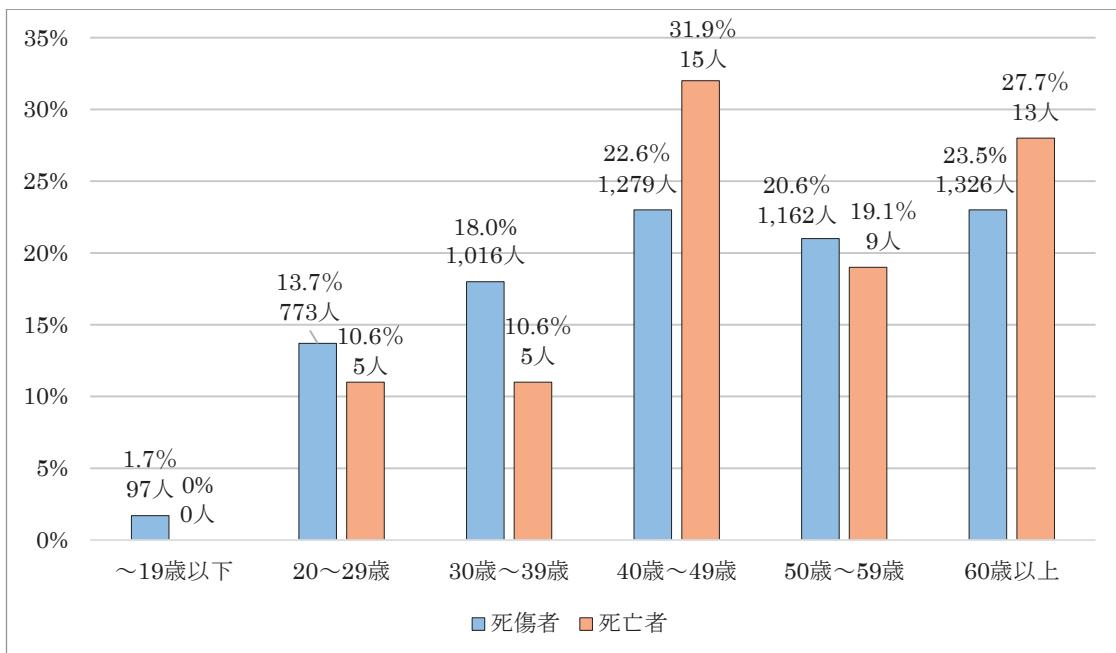
グラフ 4:事故型別 死亡者数(平成 24 年～令和 3 年)



グラフ 5 は、死傷者数及び死者数を年齢別に表したものです。

以前までは、60 歳以上の年代の死者数割合が大きくなっておりましたが、令和 3 年までの累計で 40 歳～49 歳の死者数割合が高くなっていることが、このグラフから分かります。

グラフ 5:年代別 死傷者・死者数割合(平成 24 年～令和 3 年)



2. 自動車技術総合機構の検査場での事故

自動車整備事業場での事故のみならず、自動車検査場コースにおいても車両の運転操作を誤るなどによる事故が発生しています。

ギアを入れたまま降車した事に起因する事故

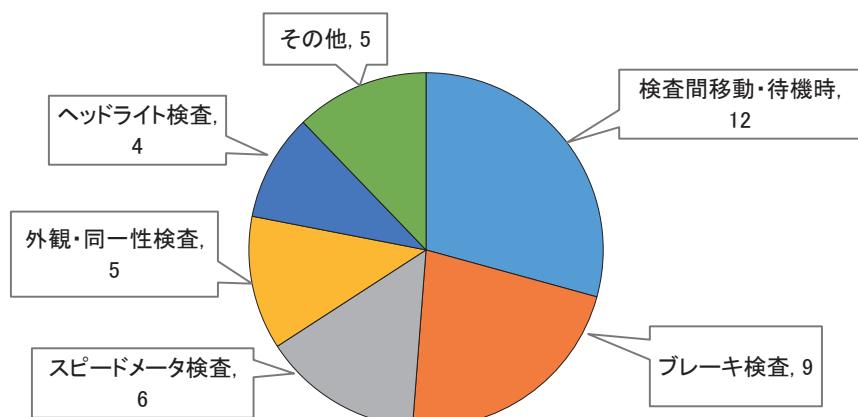
	<p>【概要】 後輪ブレーキ検査を終えた受検者が輪留めを外そうと降車した際、ギアがドライブに入っていたため車両が前方に動き始めた。受検者は運転席に飛び乗りブレーキペダルを踏もうとしたが誤ってアクセルペダルを踏み暴走。ヘッドライトテスタに衝突し更に前進してピットに脱輪した。</p> <p>【被害状況】</p> <ul style="list-style-type: none">■ ヘッドライトテスタ損傷■ 自受検車両損傷
---	--

ギア位置を失念してアクセルを踏み混んだ事に起因する事故

	<p>【概要】 ハイブリッド車のヘッドライト及び排ガスの検査時、検査中にならなかつたため受検者は排ガスが出ていないと思いアクセルをふかしたところ、ギアがドライブに入っていたため車両が発進しヘッドライトテスタに衝突した。</p> <p>【被害状況】</p> <ul style="list-style-type: none">■ ヘッドライトテスタ損傷■ 自受検車両損傷
--	---

留意点

2016年度から2020年度の間にギア位置に起因した事故が41件発生しています。車両が急発進し周囲の検査機器や車両に衝突するという大きな事故に至るケースもあります。受検車両の降車時には必ずギア位置を確認し駐車ブレーキを掛ける、ギア位置は常に確認する等、確実な車両操作をお願いします。



ギア位置に起因した事故ケース

アクセル・ブレーキの踏み間違いによる事故



【概要】

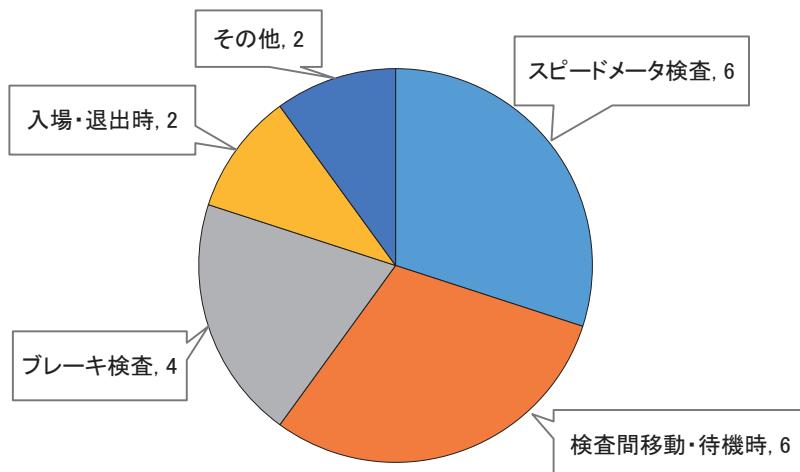
ブレーキ検査を受けていた受検者がアクセルとブレーキを踏み間違え、ヘッドライト検査中の前方車両に激しく追突し、押し出された車両がヘッドライトテスタに衝突した。

【被害状況】

- ヘッドライトテスタ損傷
- 自受検車両、他受検車両損傷

留意点

2016年度から2020年度の間にアクセル・ブレーキ踏み間違い事故は20件発生しています。前項と同様に意図しない急発進から設備や他車両への衝突に繋がる危険な事故形態です。小さな操作ミスの対処に慌てた事に起因している事例が多数あります。検査の際には慌てずに落ち着いた車両操作を心掛けて下さい。



アクセル・ブレーキ踏み間違い事故ケース

クレーン等の昇降機器の格納を失念して入場した事による事故



【概要】

大型車がクレーンとキャビンを上げて同一性の確認を受けた後、キャビンは降ろしたもののクレーンを格納しないまま前進。検査場入口に衝突し損傷させた。

【被害状況】

- 建屋上屋破損
- クレーンブーム損傷

留意点

クレーンブーム等キャビン上部に備えられた装備類を上げた場合には、格納忘が無いか入場前に車両状態の確認をお願いします。

整備作業中のちょっとした油断、不注意、判断ミス等が災害事故を起こす要因となりますので、災害防止のための基本対策等につきましては、「安全整備作業の手びき」をご活用し、職場の安全確保を図るようお願い致します。

「改訂版 安全整備作業の手びき」

(一社)日本自動車整備振興会連合会・日本自動車整備商工組合連合会



安全整備作業の手びき
災害事故の防止と機器の適切な取扱い

日本自動車整備商工組合連合会
(一社)日本自動車整備振興会連合会

- I 自動車整備業の労働災害の現況
- II 整備作業中における重大事故発生事例
- III 自動車検査場での事故発生事例
- IV 災害防止のための基本対策
- V 安全な整備作業のための留意点
- VI 主な機器の適切な取扱い
- VII 事故防止のための取組み事例
- VIII 不慮の災害に備えた保障制度